

学校と地域をむすぶ

かけはし

大津市立葛川小・中学校

地域コーディネーターだより

2016. 8. 1

NO. 2

久多の自然と人々とふれあって

晴れ渡った青空のもと、久多に全校みんなで行ったのは5月の終わり。それぞれの学年ごとに活動内容は異なりましたが、半日、久多で地域の方や自然とふれあいながら過ごすことができました。



1・2年生は、自然探検。上の町で川に入り、生き物をたくさん見つけました。網や水中メガネを持ちながら、目を凝らして生き物を探します。カニやアカハラをたくさんとりました。

3・4年生は、久多の町探検。上の町から少し山の方に入りながら、見つけたのは

野草や野の花。お宮さんや大杉など、久多の名所もたずねてまわりました。

5年生は、川の水調べ。上の町や下の町など、場所を変えて水を取り、川の様子を観察しました。とった水は後日学校で水質を調べました。そして、久多の川に関わって、「いかだ流し」の話を小坂源逸さんにお聞きしました。久多ではいかだに乗っていた方はもう小坂さんだけということで、大変貴重なお話を聞かせていただきました。切り出した山の木の皮をはぎ、長さを合わせて切り、穴をあけてひもでくり組み立てていく。寒い冬の作業は手がかじかみ大変だったこと。豊富な雪解け水を利用していかだを流したこと。いかだに乗って川を下っていくと、途中難所がいくつもあり、腰まで水につかって体が浮き上がりとてもこわい思いをしたこと。昔は、山の木を切って生活をしていたので、木を運び出す手段



は、トラックが走り出すまではいかだを利用していたそうです。久多から梅の木まで、そして梅の木から安曇川河口の船木まで、さらには、琵琶湖を経て京都や奈良まで木が運ばれていたことがわかり、川を通じてつながっていたのだと思いました。今はほとんど木が切られず、山の木が水を蓄えていることから、川の水は

昔に比べて少なくなっているという話も聞きました。山の木と川の水も関わりあっているのだと思いました。

6年生は、カフェレストラン「猪鹿村」の椎葉直美さんと漁業組合長の駒池重尚さんのお話を聞きました。お仕事の話はもちろんのこと、子どものころの夢、その夢はどうなったのかなど、今まで生きてこられた中でのエピソードをたくさん聞かせていただきました。その後、カメラを持って、久多のおすすめスポットを写真に撮って回りました。

川の水

5年生は、水に関わる学習をしています。久多でも川の水について学習をしましたが、昔の川の話、岡崎武久さんと上村くに江さんのお二人にお聞きしました。昔は川にたくさんの魚がいて、その魚をとったこと。毎日のように、学校から帰ると、大きな岩から川に飛び込んだりしながらみんなで遊んだこと。川の水で野菜やなべを洗っていたこと。麻ひも作りでは、麻を蒸して皮をはぎ、水で洗う仕事を大人も子どももみんなが河原に集まり作業をしていたそうです。秋に拾った栃の実を炊いて水にさらす仕事も川でやっていたこと。川の水は生活に欠かせないものだったことがわかりました。今は川の水の量や魚が減ってきていると話されるお二人。山に広葉樹がたくさんあった頃は、その落



ち葉が作る養分が川に流れ込み、魚のえさもたくさんあり、魚がたくさん集まってきたのだということです。たくさんのお話の中に、昔は人と川が深い関係にあったことや、川を大切に思っておられたことを感じました。また、山と川の深い関わりを知ることができました。毎日のように川で遊んだり、魚をとって食べたりできたことは、何ともうらやましい話でした。

山の木

3・4年生は山の学習。まわりを見れば普通に山の木が見える葛川や久多。この山の木をどのように使っていたのだろう。昔は木地師さんがたくさんおられて木工の仕事がされていたという貫井をたずねました。澤井進さんのお家の作業場でお話を聞きました。まずは、梅やケヤキ、桜、柿などの木から作られたお椀を見せてもらいました。木の種類によって色や模様が違います。このお椀はいったいどのように作られたのか。「この道具で作ったんだよ」と見せていただいたのは「手挽きろくろ」。「どうやって動かすのだろう。」「ひもがついているからこれをひっぱるのかなあ。」実際にひもを引っ張ってみました。ろくろが回りました。「ろくろガンナ」を「うま」とよばれる台に置いて木にあてます。もう一人がひもを引っ張ります。木がけずられていきました。やっているうちに、少しずつコツがつかめてきて、木がけずられていく仕組みがわかってきました。この「手挽きろくろ」は滋賀県で今残っているものは少ないという貴重な道具だそうです。二人の息を合わせてやるのが大事だそうです。一人でやる方法も教えていただきました。時代とともに、



「手挽きろくろ」から「水車ろくろ」へ。そして「電動ろくろ」が生まれたそうです。その「電動ろくろ」も体験させていただきました。高速なのでとてもこわかったですが、カンナを当てる位置を教えていただきながら、お椀らしきものに近づいていく作業に感動しました。山に生えていた1本の木。これを丸太にして、ろくろとカンナを使ってけずりながら、丸いお椀やお盆を作り上げていくこの作業は、とても大変な作業であり、かつ技術が必要だと感じました。高度な技術を持った「木地師」の方々が、この土地にたくさんおられたことに歴史を感じました。1本の木から物を作る。興味を持った3・4年生の子どもたちは、学校の入り口の木の下に、丸太を使ってアスレチックを作りました。毎日のようにみんなが楽しく遊んでいます。



わたしたちの住む町

1・2年生は町居の探検に行きました。町居に詳しい子どもたちが案内人です。「もくもく」で鯉やあゆを見せていただきました。お宮さんに行くと、まだあの台風の大雨による被害の傷跡が残っていて、改めて「大雨や洪水が起きませんように」と願いをこめる子どもたちでした。愛犬やチャボ、魚たちも紹介してもらいました。「町居ハウスって、中はどうなっているのだろう。」「何があるのだろう。」出雲さんのお計らいで、中に入れていただき、「おくどさん」や「いろり」を発見。どきどきしながら二階にもあがりました。たくさんの部屋を散策させていただき、謎は解明。最後は、お楽しみの川遊び。本流の横に流れるゆるやかな流れに入り、少し冷たい川の水を足で感じながら、生き物を探したり、笹船を作って流したりしました。「石でかこって水を深くすると魚がよってくるよ」と、ふだん魚をたく



さんつかまえている子どもは、少し大きな石を集めて川の流りに並べていきます。最後の最後に、「あっ、魚や！」と目ざとく見つけた魚を慣れた手つきで網ですくって取りました。帰りは、子どもたちのおすすめの道、町居からキャンプ場をぬけ、坊村へ。そして学校へと歩いて帰ってきました。



人生の先輩にインタビュー

6年生は、人の生き方に学ぶ学習を進めています。生き生きと活躍されているなあと思う身近な方にインタビューをしながら、その方の大切にされておられることを知り、これから歩いていく道を見出すきっかけにしていこうというものです。インタビューはお仕事の話からはじまり、子どもの頃の夢やその夢はどうなったのか、今まででつらかったことや楽しかったことなど、本音を語っていただきました。久多の全校学習では、椎葉直美さんと駒池重尚さんに、そして葛川では、織田玲さんと中西克己さんにインタビューをしました。ふだん、私たちが知っている「この人」とはまた違う「この人」を知ることができました。子どもの頃に持った夢がかなわなかったけれども、違ったことに楽しさを発見できた、やりたかったことにたくさん挑戦してきた、仕事が楽しい、この仕事が好き、一番好きなことを仕事にしない、休みの日には好きなことを楽しむ、つらいことはたくさんあっても楽しいことがあるからがんばれる、やろうと思ってはじめてわけではないがその中に自分の得意なことを取り入れている、地域が変わっていくことがうれしい、人との出会いや言葉に元気もらっている、など、さまざまな考えや思いを感じ取ることができました。また、この方々以外にも、校外学習で行った「京都市動物園」の獣医の和田さんやその時に乗せていただいたタクシードライバーのお二人の方にもお話を聞かせていただきました。

お祭りに向けてきれいにしよう

琵琶湖一斉清掃の一環として小中学校全校で行っている地域清掃。地域の一住民として、またふだんお世話になっている地域のために自分たちのできることをやろうということで、毎年2回地域の清掃を行っています。今年の夏の部は、伝統的な葛川のお祭りが行われる「地主神社」と「明王院」を掃除場所を選びました。

「太鼓廻し」のお祭りについては、その伝統や歴史にまつわるお話を聞かせていただいたり、実際に太鼓をまわしたり、それを見に行ったりするなど、子どもたちにとっても大きな地域の行事の一つになっています。そのお祭りが行われる場



所は、地域の方々によってもきれいにしていただいています。自分たちもそのうちの少しでも手を貸すことができたらいいなあということで、今回の実施にいたりしました。小中学生が2つのグループに分かれ、中学生をリーダーにして掃除をしました。地主神社は、拝殿をふいたり、落ち葉を竹

ぼうきではいたり、草むしりをしました。明王院は、三宝橋から階段にかけて苔とりや草むしりをしました。限られた活動時間のため、まだまだやりたい箇所はありましたが、集められた落ち葉や草、苔を見ると「きれいになったな」と実感しました。そして、もうすぐここで行われるお祭りがいつも以上に楽しみになりました。掃除のやり方を教えていただいたり、飲み物を用意していただいたりした佐々江勝さん、葛野常喜さん、ありがとうございました。



自転車交通安全教室

滋賀と京都のおまわりさんによる「自転車交通安全教室」が小学校で行われました。滋賀・京都合同の警察署の方々によるこの「交通安全教室」も今年で4年目になります。大津北警察署と京都下鴨警察署のおまわりさん、そして葛川駐在所の塩山さん、久多駐在所の島本さんの9名の方々に来ていただき、自転車の安全な乗り方について教えていただきました。普段、あまり自転車に乗る機会がないという子どもたちも多かったのですが、自転車の安全点検の仕方や、自転車の交通ルールなどを教えていただきました。運動場にかかれた道路や交差点、横断歩道、信号機を使って、実際に自転車に乗って走ってみました。発信前には左・右だけではなく後ろも確認すること、道路の左を走ること、止まっている車がある時にはいったん止まって後ろを確認してからなど、たくさんの方に注意しながらコースを走ることができました。また、シュミレーターを使って、画面を見ながら自転車をこいで走ってみるといった体験もしました。実際に自転車に乗る機会には、教えていただいたたくさんの方のことを思い出して、安全に走ってほしいと思います。また、自転車と歩行者の交通安全ルールは違う点もありますが、交通安全をいつも心がけてほしいと思います。



夏の学校林活動

夏休みに入って、小中学生で学校林に行きました。学校林活動の夏の部は、下草刈りの作業です。事前に森林組合の方が背丈の高い草を機械で刈ったり、下枝をはらっておいてくださったので、無理なく活動場所にたどり着くことができました。しかし、刈られた草を見るとかなりの草におおわれていたことがわかりました。織田さんから作業についてのお話に加えて、杉とヒノキの葉の枚数の数え方を教えていただきました。私たちが今まで1枚の葉だと思っていたものの中

に、杉は約90枚、ヒノキなら約600枚の葉があるそうです。小さな小さな芽のようなものを1枚と数えることを知り、びっくりするとともに、1本の木にどれぐらいの葉があるのだろうととても興味を持ちました。小中学生のグループで下草刈りをしました。小学校3年生以上はかまで草を刈り、その草を1・2年生が取り除きました。木のまわりの草や木に巻きついている草を探して作業をどんどん進めていきました。春に決めた「班の木」の様子も観察しました。学校に帰ってから木の様子や生長の様子について交流しました。木の枝が増えていた、葉の先が黄緑になっていた、葉が大きくなっていた、背丈がのびていた、小さなどんぐりの実ができていた、ヘキサチューブの中の葉が茶色になっていたなど、新たな発見がありました。ヘキサチューブに守られた木は、順調に大きくなっています。中でもびっくりしたのは、ホオノキの葉がとても大きくなっていて、あの朴葉焼き味噌の葉そのものだと思います。また、育てた苗木に木の実を見つけたのはじめてでした。ヘキサチューブを20cmほど持ち上げていた木もありました。きっと伸びる時にひっぱりあげたのでしょう。生長の勢いを感じました。織田さんに教えていただいた葉の数え方をもとに、杉の木の葉を数えたグループもありました。計算して約8000枚。ヘキサチューブの上から頭を出している木の枝や葉はのびのびと大きくなっています。来年ぐらいにはヘキサチューブを取り外す作業も入ってきそうです。天気があやしく、短時間での作業や観察でしたが、春から夏にかけての木の生長の様子を自分たちの目でしっかりと確かめることができました。この夏の間にもまた、木は生長していく



のでしょうか。秋に行くのがまた楽しみになりました。いろいろ教えていただいた織田さん、いっしょに下草刈りをしてくださったスクールバスドライバーの畑さん、そして、普段からお世話いただいている森林組合の皆様方、ありがとうございました。